

大阪大学大学院医学系研究科

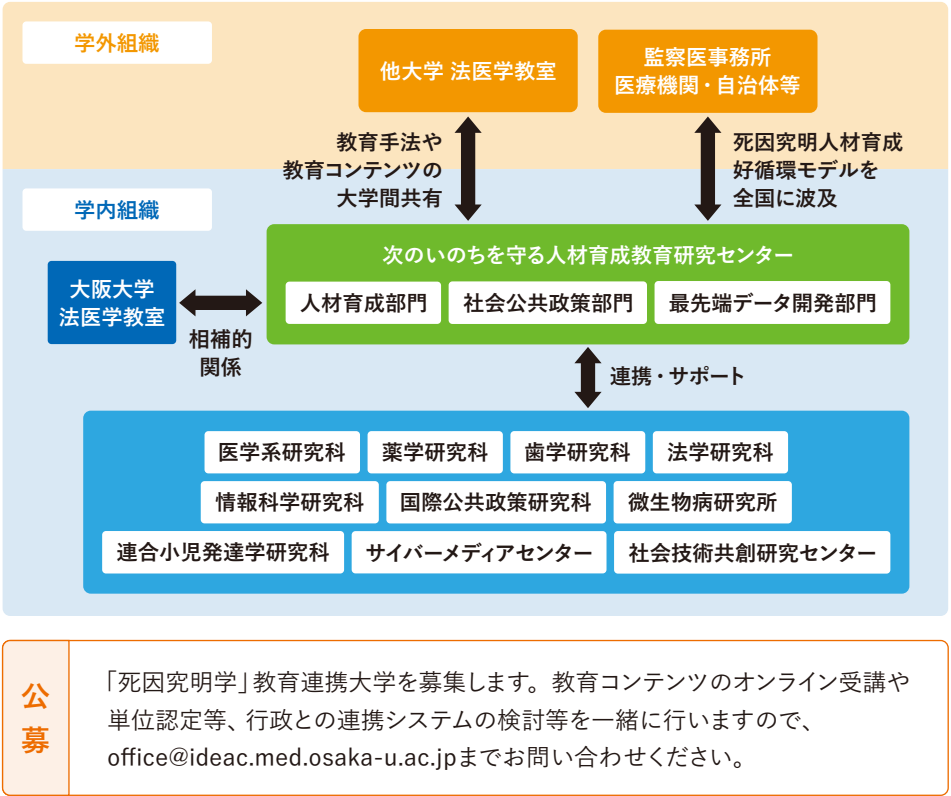
次のいのちを守る人材育成教育研究センターについて

次のいのちを守る人材育成教育研究センターは人材育成部門、社会公共政策部門、最先端データ開発部門の3部門により構成されています。

人材育成部門	社会公共政策部門	最先端データ開発部門
死因究明人材育成教育プログラムの内容の充実や更新、社会的ニーズに応じた教育プログラムの新規開発を行います。また、各大学や地域のオーダーメイド教育プログラムの開発及び研究結果から大学院教育プログラムへの反映を行います。	他大学との教育ネットワークを構築及び連携、かつ地域連携のためのマネジメント業務を行います。死因究明等に関する社会への広報を含めた「次のいのちを守る」公共政策のオーダーメイド開発や各地域との調整業務も行います。	最先端技術の導入による死因究明に関するデータ解析、さらに連携大学と協力して死因究明データベース構築を行います。また、リソース利活用についての倫理指針やガイドラインの整備、その利活用の実施に関する検討を行います。

学内外との連携

次のいのちを守るべく人材育成教育研究拠点を形成し、国内に広く浸透する形で大学院での教育手法や教育コンテンツの大学間共有、蓄積した最先端データの全国共同利用、国内の死因究明実施機関との太いチャンネルの樹立を目指します。また、これらの活動を通じて、大学間の大学院教育連携(あるいはネットワーク)を形成し、国内における死因究明等人材育成、ならびに法医学者・法歯学者の養成の迅速化を図ります。さらに国際的展開も視野に入れ、大阪大学が高度教育研究拠点として死因究明に関する課題解決をリードしていきます。



リスクリング死因究明学教育

すでに社会で実務的に活躍されている方への高度リスクリング教育として大学院科目等履修生高度プログラム(所定の講義や実習を履修することでまとめた知識等を修得できる体系的な教育プログラム(大学院レベル))を実施しています。令和6年度は右記の5つのプログラムを実施します。是非MPHの取得や高度プログラムを履修して、ご活躍願いたいと考えています。

大学院科目等履修生高度プログラム

- 死因診断能力の向上と死因究明の攻究(初級・上級)
- 在宅医療の充実における看取り向上のための検索能の涵養
- 多死社会における死後画像診断力の向上
- 訪問看護師向け死因究明の涵養プログラム
- 死因究明学に根ざした法歯学の涵養プログラム



詳細はこちら

死因究明から、 次のいのちを守る

「次のいのちを守る」 人材育成教育研究拠点事業 キックオフシンポジウム

令和6年7月30日[火] 13時-17時
大阪大学医学系研究科
銀杏会館 阪急電鉄・三和銀行ホール

大阪大学では、2014年に、文科省特別経費にて医歯薬三研究科連携の「「死因究明学」の創造と担い手養成プラン」事業を開始し、同年大学院に「死因究明学コース」を設置、さらに講義科目として「死因究明学概論」「死因診断学総論」等を新規に作り、単位数26の世界で唯一のコースを実施してきました。令和5年度より、文科省基幹運営費交付金(ミッション実現加速化経費)支援を得て新たに「次のいのちを守る人材育成教育研究拠点形成事業」をスタートさせました。10月1日付けで医学系研究科に次のいのちを守る人材育成教育研究センターが設置され、まず「死因究明人材育成好循環モデル」について、国内各地域に存在する大学を対象に、教育コンテンツ等の共有を図り、適用を行うことを予定しています。さらに、今まで蓄積した膨大な科学的データのデータベース化と統計解析を進めると同時に、リソースの利活用について法的規制や倫理的課題等の解決と医療・健康・保健行政施策への反映を行います。21世紀はもちろん、22世紀へと繋がる国内外の人材育成の拠点を目指しています。



「次のいのちを守る」人材育成教育研究拠点事業 キックオフシンポジウム

基調講演 1

国連における 「人間の安全保障」の視点から 次のいのちを守る道を考える



星野 俊也

国連システム合同監査団 (JIU) 監査官 (元国連大使)

国連システム合同監査団 (JIU) 監査官。大阪大学名誉教授。大阪大学ESGインテグレーション研究教育センター (ESG-IREC) 共同代表。大阪大学理事・副学長、国際交流基金関西国際センター所長、日本国際連合協会理事などを歴任。2006-08年は公使参事官 (政務担当)、2017-20年は大使・次席常駐代表 (経済・社会、行財政担当) として国連日本政府代表部に在勤。上智大学卒業。東京大学 (修士)、大阪大学 (博士)。

基調講演 2

お母さんと子どもの命を守る



池上 清子

公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン理事長

国連機関や大学、NGOにて、開発途上国の女性の健康、人口、HIV／エイズなどの国際保健に関する諸問題に取り組む。外務省ODA評価有識者会議委員、難民参与員、野口英世アフリカ賞選考委員などを務める。保健分野NGO間のネットワーク構築にも寄与。著書に「有森裕子と読む人口問題ガイドブック」(国際開発ジャーナル社) など。ニューズウィーク日本語版特集「世界で活躍する日本人女性100人」の一人に選ばれる。日本赤十字社常任理事、アフリカ協会副理事長。アジア人口開発協会副理事長。大阪大学 (博士)。

基調講演 3

Operationalizing facility based paediatric mortality audit and review to improve quality of care in resource limited settings



ウィルソン ミルトン ウェレ

世界保健機関母子保健部門医療専門官

小児保健サービス、政策、戦略、臨床実践指針の世界的な技術指導専門家。ウガンダの小児科医であり、公衆衛生の専門家として28年以上の国際保健分野での経験を持つ。2002年からは世界保健機関において、マラリア症例管理とサービス提供を担当する医務官として6年間勤務。現在は、世界保健機関における子どもと青少年の包括的な健康とウェルビーイングのためのプログラムに関する活動を主導している。

事業説明

死因究明から 次のいのちを守る



松本 博志

大阪大学大学院医学系研究科

次のいのちを守る人材育成教育研究センター長／法医学教室教授

1991年和歌山県立医科大学卒業、人の死を防ぎたい思いで法医学に進む。1994年に京都大学医学部助手、その後、ハーバード大客員研究員、札幌医科大学教授を経て、2013年大阪大学に着任。2014年より「死因究明学の創造と担い手養成プラン事業」を開始。2014～2019年には大阪府監察医事務所長を兼務。大阪大学大学院高等司法研究科でも教員を務める。医療安全にも2006年から関わり、日本医療安全調査機構近畿ブロック統括調査支援医も兼ねる。

大阪大学大学院医学系研究科 次のいのちを守る 人材育成教育研究センター スタッフ



佐々木 健
特任教授



森 臨太郎
特任教授



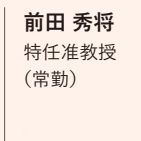
富山 紀子
特任准教授
(常勤)



山本 依志子
特任助教



奥野 浩美
特任事務職員



前田 秀将
特任准教授
(常勤)

磯部 悠
特任助教
(常勤)

プログラム

司会	富山 紀子	次のいのちを守る人材育成教育研究センター特任准教授 (常勤)
13:00 開会の挨拶	熊ノ郷 淳	大阪大学大学院医学系研究科長
大学の挨拶	田中 敏宏	大阪大学理事・副学長
来賓のご挨拶	俵 幸嗣	文部科学省高等教育局医学教育課長
	西嶋 康浩	厚生労働省死因究明等推進本部参事官 (厚生労働省医政局医事課長)
	木庭 愛	こども家庭庁成育局母子保健課長

13:30 座長	石井 優	大阪大学大学院医学系研究科副研究科長
基調講演 1	国連における「人間の安全保障」の視点から次のいのちを守る道を考える	星野 俊也 国連システム合同監査団 (JIU) 監査官 (元国連大使)
基調講演 2	お母さんと子どもの命を守る	池上 清子 公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン理事長
基調講演 3	Operationalizing facility based paediatric mortality audit and review to improve quality of care in resource limited settings	ウィルソン ミルトン ウェレ 世界保健機関母子保健部門医療専門官 (ビデオ)
事業説明	松本 博志	次のいのちを守る人材育成教育研究センター長

14:50 パネルディスカッション	死因究明から次のいのちを守るには	
座長	川崎 良 大阪大学大学院医学系研究科教授 (公衆衛生学)	松本 博志 次のいのちを守る人材育成教育研究センター長
パネリスト	日本産科婦人科学会 板倉 敦夫 順天堂大学医学部産婦人科学講座教授	日本小児科学会 沼口 敦 名古屋大学附属病院救急・内科系集中治療部長
	日本循環器学会 坂田 泰史 大阪大学大学院医学系研究科教授 (循環器内科学)	日本医療安全調査機構 田原 克志 専務理事
	厚生労働省死因究明等推進本部 西嶋 康浩 参事官 (厚生労働省医政局医事課長)	
指定発言	堤 康央 大阪大学大学院薬学研究科教授 (毒性学)	

15:55 閉会の挨拶	野々村 祝夫 大阪大学医学部附属病院長
-------------	---------------------

16:00-17:00 意見交換会



俵 幸嗣

文部科学省高等教育局医学教育課長
1996年入省。文化庁総務課勤務、高等教育局私学助成課長補佐、石川県への出向を経て、高等教育振興局学術機関課長補佐、在タイ大使館一等書記官、大臣官房参事官、初等中等教育局特別支援教育課長、広島大学理事を経て、現職。



板倉 敦夫

順天堂大学医学部産婦人科学講座教授
1986年名古屋大学医学部卒業。「不幸な赤ちゃんを減らしたい」との思いで産婦人科医を志す。2013年から現職。2017、2020年版産婦人科診療ガイドライン産科編作成委員長、現在日本産科婦人科学会 周産期委員長。



田原 克志

日本医療安全調査機構専務理事
1989年九州大学医学部卒業。同年厚生省 (現厚生労働省) 入省、2005年医政局総務課医療安全推進官として、診療関連死モデル事業実施に携わる。2011年医政局医事課長、その後、社会・援護局障害保健福祉部長、関東信越厚生局長を経て、2024年より現職。



西嶋 康浩

厚生労働省死因究明等推進本部参事官／厚生労働省医政局医事課長
2002年山口大学医学部卒。入省後は、救急・周産期医療、医療計画、難病対策、介護報酬改定等を担当。国立循環器病研究センター、岡山県庁への出向等を経て、2022年健康局移植医療対策推進室長、2023年がん・疾病対策課長を経て、現職。



沼口 敦

名古屋大学附属病院救急・内科系集中治療部長
1996年名古屋大学医学部医学科卒業。小児科医として複数の病院で勤務ののち、2011年名古屋大学医学部附属病院救急科勤務を経て、2018年より現職。2019年から厚労科研、こども家庭科研にてチャイルド・デス・レビューの探索に携わる。



堤 康央

大阪大学大学院薬学研究科教授／大阪大学名誉教授
大阪大学薬学部卒業、大阪大学大学院薬学研究科博士前期課程修了、薬学博士 (大阪大学)。2008年より大阪大学教授。専門分野は毒性学、安全科学、動態学。2014年に第10回日本学術振興賞を受賞。2012年4月から2018年3月まで薬学研究科長・薬学部長。



木庭 愛

こども家庭庁成育局母子保健課長
2001年東京大学医学部卒業。病院勤務 (内科) を経て、2004年厚生労働省入省。感染症対策、保健医療統計、食品安全、国際保健 (WHO出向) 等の分野に従事。2017年茨城県保健福祉部長、2021年厚生労働省移植医療対策推進室長等を経て、2023年7月より現職。



坂田 泰史

大阪大学大学院医学系研究科教授
1993年大阪大学医学部医学科卒業。2002年大阪大学大学院医学系研究科博士課程修了。米ペイラー医科大学 post doctoral fellow、大阪大学大学院医学系研究科循環器内科学助教、同講師を経て、2013年より現職。2022年より大阪大学医学部附属病院副病院長。



川崎 良

大阪大学大学院医学系研究科教授
1997年山形大学医学部卒業。同眼科学講座助手、米ジョンズ・ホプキンス大学客員研究員、豪メルボルン大学研究員フェロー、山形大学公衆衛生学講座准教授、大阪大学大学院医学系研究科視覚情報制御学講座寄附講座教授、同病院AI医療センター特任教授を経て、現職。



田中 敏宏
大阪大学理事・副学長



熊ノ郷 淳
大阪大学
大学院医学系研究科長



野々村 祝夫
大阪大学医学部
附属病院長



石井 優
大阪大学
大学院医学系研究科
副研究科長